

# 都市再生整備計画 事後評価シート

箱根板橋駅・南町周辺地区  
(地方再生コンパクトシティ)

令和5年6月

神奈川県小田原市

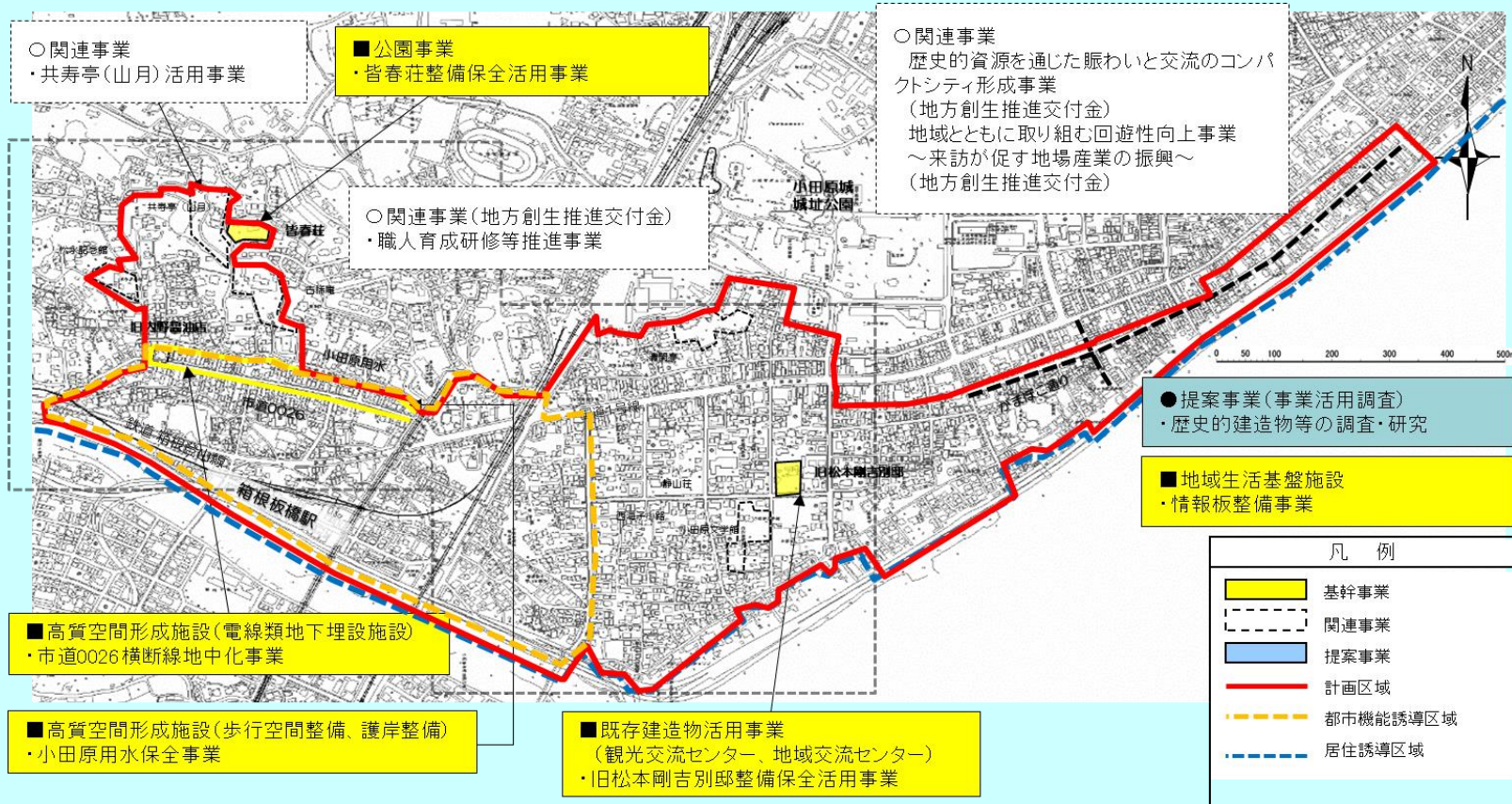
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	小田原市		地区名	箱根板橋駅・南町周辺地区			面積	97.4ha		
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	878.5百万円		国費率	0.453			
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	皆春荘整備保全活用事業、情報案内板、小田原水保全事業、市道0026横断線地中化事業、旧松本剛吉別邸整備保全活用事業(観光交流センター及び地域交流センター)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
提案事業		歴史的建造物等の調査・研究		歴史的建造物の効果的な利活用や連携を図るため						影響なし			
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	主な歴史的建造物施設の入館者数	人/年	35,717	H29	50,002	R2		3,927	×	あり なし ●	工事期間中やコロナ禍の影響による施設の閉鎖など、会館期間が限定され目標達成が難しい状況であった。	R7
	指標2	観光客消費額	億円/年	172.2	H29 (H28実績)	191.2	R2		126.3	×	あり なし ●	目標の達成に向け順調に推移し、R1年度時点で目標値を超える実績を達成したが、評価年度はコロナ禍の影響を受け人流が大きく抑制されたため、目標達成はできなかった。一方で、本地区の取組等により進んだ施設整備などは、コロナ禍以降の新たな生活様式や需要に対応する上での効果が期待され、人流や経済活動も徐々に回復していることから、1年以内または近年中の達成を見込んでいる。	R7
指標3	空き家・空き店舗の利活用件数	件	0	H29	10	R2		4	△	あり なし ●	コロナ禍の影響により新規に事業展開を予定する人が少なく、1年以内の目標達成も難しい。	R7	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	地区内の歴史的資源の保全・活用が進み、小田原固有のなりわいや邸園文化を生かした観光回遊の拠点性が強化された。中心市街地を形成する小田原駅・小田原城周辺と漁港交流促進施設(漁港の駅 TOTOCO小田原)を整備した早川駅周辺を結ぶ本地区に新たな立ち寄りのポイントができたことで、それぞれのエリアや施設の来訪者が往来・循環する動線が創出されており、地域経済の活性化や賑わいの機運が高まりつつある。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	官民連携による取組	歴史的建造物民間活用コーディネート事業 歴史まちづくり地域連携推進事業 (地方再生コンパクトシティ)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○				
持続的なまちづくり体制の構築	地域のなりわい、まちなか再生支援事業 (地方再生コンパクトシティ)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○					

## 様式2-2 地区の概要

箱根板橋駅・南町周辺地区(神奈川県小田原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 歴史的資源を通じた賑わいと交流のコンパクトシティの形成 ・回遊の公共施設整備と都市機能の充実による交流促進と観光消費の拡大 ・歴史的資源を生かした地域活力の向上 ・歴史的建造物の保全と活用による交流空間の創出	主な歴史的建造物施設の入館者数 単位: 人/年	35,717 H29	50,002 R2	3,869 R2
	観光客消費額 単位: 億円/年	172.2 H29 (H28実績)	191.2 R2	126.3 R2
	空き家・空き店舗の利活用件数 単位: 件	0 H29	10 R2	4 R2



まちの課題の変化	隣接する小田原駅周辺地区と連携した「地方再生コンパクトシティ事業」の取組により、本地区では、歴史的建造物の保全・活用や地域のなりわい文化を生かした街なみの景観整備が進み、小田原駅・小田原城周辺と連なる観光交流空間が創出され、地域の魅力の向上が図られた。 令和4年度現在、コロナ禍の影響で減少した人流や経済活動も徐々に回復しており、今後は、小田原駅・小田原城周辺の交流人口を本地区や早川駅周辺エリアまで引き込み、地域経済や暮らしの質の向上による持続的なまちなかの活性化を図る取組が重要となる。 エリア一帯で交流人口の受け皿となるために、点在する歴史的建造物や地域資源の連携や施設周辺での滞在・交流を促す公共空間の整備により、ゆとりある観光交流を形成するとともに、公有の歴史的建造物の活用に係る公民連携の強化や民間活用の検討を推進する。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	歴史的建造物の保全と活用による観光拠点整備 ウォークアブルな公共空間整備による観光交流の促進 歴史的資源を生かした交流空間の拡大と地域活力の向上